

〔教令類纂 二集九十六〕享保十一丙午年二月二十四日

一倒死病人。水死其外異死迷子等有之節其所より訴出次第年頃并衣服等之品認め、自今芝口町河岸ニ七日之内札ヲ建置候條、心あたり有之もの者、右札場江罷越、文言を見候而親類由緒之者にて、病人或者死骸引取度と存候もの、又者怪敷儀も有之、吟味願度存候もの者札建置候奉行所江可訴出候、

札文言

去ル幾日何方ニ、年頃何歲計、衣服者何を著し、

倒死

病人

水死有之候、心あたりのものは、誰方江早々可申出候、

異死

迷子

月日

二月二十四日

賜假

〔本朝世紀〕天慶八年十二月七日己巳、權大輔藤原有聲朝臣申云、俄依煩身病不可參、大輔大江維時朝臣、自昨日依治病、奉三箇日假文、少輔紀朝臣在昌申云、自議奏日後、痢病發動、不能參入、

〔台記〕久安三年五月十七日己卯、獻治病暇文、使下家司、藏人所、外記局等也、藏人所者付出納、出納

無疾、爲最勝講間休息所獻也、美濃備前、周防、阿波不可宛封國之内也、具民部件等國、有余封、仍請改

他國、其請文載、依違式請改之由、今日滿一百万了、

請假三箇日